



緑化建設協会だより

発行所 一般社団法人 石川県造園緑化建設協会 総務企画部会 発行責任者 北 総一郎

〒920-0376 金沢市福増町北 840 番 2 TEL 076-269-1110 FAX 076-269-1279



近年の異常気象と造園業界

副会長 後 秀夫

今年も暖冬で大寒にもかかわらず、昨晩も非常に強い雨降りでした。私達の子供の頃は、この時期に降るものは当然、雪で気温も低く、田舎ではカチカチに凍った田んぼや畑の上を歩き近道で学校に通った思い出があります。

山に積もるべき雪も降らず、この時期から夏の水不足を心配してしまっています。

近年、世界各地で大雨、洪水など自然災害が頻発しています。直近ではオーストラリアに於ける森林火災で、何億匹もの野生動物が焼死し、いまだに延焼中とのニュースに、異常気象の怖さを思い知らされております。

我が国でも、地域を問わず大雨洪水台風などの大きな自然災害が、毎年当たり前のよう発生し多くの方々が被災しています。

こうしたことは、すべて我々人類がこれまで行ってきた経済活動の負

の遺産だと思えます。

地球温暖化の進行は、年を追って深刻な問題を提起しています。

平均気温の急激な上昇、フロンガスによるオゾン層の破壊など、この先、我々人類を含む生物が安全安心に生活するために、改善しなければならぬ最も大きなテーマです。

地球全体の平均気温を下げ、オゾン層を守るには地球規模の課題として森林伐採を極力最小限にし、緑のポリウムをもっとと大きくすることです。

先進国が発展する中で、地球にさまざまなダメージを与えてきたわけで、率先して改善に力を注いで貰いたいものです。

そして、後進国が無計画に森の木を切ったり、焼いたりしないように指導するのが先進国の役割です。

大きなところは政治家の先生方にお任せすると、我々の業界レベルでこの問題を考えるなら、環境問

題の対局にあるのが生業としている緑だと思えます。緑は環境改善の大きな武器だと思えますし、何とか仕事につなげていきたいものです。

異常気象による、大規模な自然災害が頻発する中で緑が持つ防災、減災機能を活用した課題解決の可能性を追求し、業界にとって実のある提案ができればよいと思えます。

話は小さくなりますが、身近な生活環境の問題として、都市中心部の空洞化空き地空き家問題があります。このような空間を緑地として整備し、健康活動の場や活用なども提案できれば良いと思えます。

社会問題を軽減し、解決する提案をしながら三方よしの精神で仕事につなげていきたいものです。

扱う規模は大きくないかもしれませんが出来ることからコツコツとの精神で取り組んでいきたいものです。

仙台市方面への施設研修

(株)吉村植木園 中川 大佑

令和元年10月30日～10月31日の二日間の日程で仙台へと視察旅行に行ってきました。5年前の視察旅行でもご案内いただいた、古積造園土木株式会社 代表取締役 古積昇様

のご厚意により今回も案内をいただきました。空港から視察先への移動中の風景も前回と比較して震災の復興も進み、大きく変わってはいましたが、所々でいまだに震災の跡もみられバスの中でも震災当日の話も聞き、改めて地震と津波の恐ろしさを実感しました。

一か所目の視察先で曹洞宗金剛寶山 輪王寺に訪れ、住職の日置様から寺院の歴史と庭園の説明をしてい

ただきました。また日置住職が震災後から地域活動として取り組まれている「緑の防潮堤」の話と、防潮堤に植える苗木のハウスを見学させていただきました。

午後からの視察前に昼食は仙台名物の牛タンを食べ、二か所目の国営みちのく公園へ向かいました。私自身国営公園へ行ったことがなく、初めての経験であり、とても楽しみにしていました。みちのく公園は北地区、里山地区、南地区の三つの分かれており、今回は南地区の視察になりました。花壇や景石を中心とした庭園エリアから始まり、多くの遊具で遊べるエリアと東北6県の古民家



を移築し、昔の東北の生活を体験できるエリアの視察を行いました。石川県には無いスケールの大きさを実感し機会があれば次は休日に多くの人で賑わいがあるところを見てみたいと思いました。

一日目最後の視察は今回の目的である仙台市内の街路樹視察です。東洋緑化株式会社 代表取締役 石出慎一郎様ご案内のもと「緑の回廊」と言われる6つの通りでイチョウ、トウカエデ、ケヤキの管理手法の説明や、美しい樹形を保つ為に業者と行政が協力しあう取り組みを聞かせていただき、あらためて仙台が杜の都と言われる理由を実感しました。

二日目の視察では日本三景松島の観光のシンボル、五大堂と瑞巖寺の視察に訪れました。一つの場所で国

宝と重要文化財が同時に見ることができる貴重な寺院であり、廻りの景色も素晴らしく、日本三景と言われる理由がよくわかりました。また松島海岸から汽船に乗り、日本三景を眺め、松尾芭蕉もこの景色を楽しんでいたのだなと思いい遊覧を楽しみ、塩釜で船を降り、武田の笹かまぼこの工場見学を行い一泊二日の視察を終えました。

今回の視察で5年ぶりに宮城県を訪れ、良い都市を形成するには緑が重要であることを再認識し、県民、観光客に喜ばれる街づくりに取り組んでいきたいと思えます。

最後に視察でご案内いただいた古積様、石出様、企画していただいた事務局・委員会、理事の皆様にご挨拶を申し上げます。



令和元年11月3日から9日までの7日間、日本庭園修復の現況調査のため、当協会金沢支部幹事荒屋義武氏とともに、金沢市の姉妹都市第1号である米国バッファロー市へ行ってまいりました。



姉妹都市(アメリカ・バッファロー市)

日本庭園調査派遣事業

(株)浦造園 浦 誠

今回、金沢市の村山卓金沢市副市長・山田敏之金沢市国際交流課長とともに、「姉妹都市アメリカ・バッファロー市日本庭園調査団」の一員として、バッファロー市長表敬訪問や現地の金沢姉妹都市交流委員会との交流会、そして日本庭園の修復についての協議などを行ってまいりました。

日本庭園の修復と述べましたが、1974年にことじ灯籠を中心とした日本庭園が完成して以来、数回の修復や維持管理などを行ってきたものでありますが、(最終2008年維持管理事業)現在は、樹木の伐採や枝葉の繁茂による景観の乱れ、湖の波浪による島の護岸石組等の一部崩壊など、現況はあまりよくないというのが現地から金沢市への報告でした。

そのため、金沢市は、国土交通省により、平成29年度から行われている「海外日本庭園再生プロジェクト」に応募し、造園緑化関係団体の協力のもと造園技術者を派遣し、日

本庭園を修復することとしております。

補足ですが、バッファロー市は米国ニューヨーク州北西部エリー郡にある都市で、五大湖の一つエリー湖の東岸に面しております。緯度で見るとほぼ北海道の函館あたり、冬には最低気温マイナス10℃にもなり、雪も多く降るなど、四季の変化が非常に顕著な都市であります。

日本庭園はこの都市にある「デラウェア公園(面積1.2ヘクタール)」内に位置し、3つの島からなる庭園とその周辺を彩る桜並木や自然石の石段からなる園路によって構成されており、島のある湖の水は有名なナイアガラの滝へとつながっています。

さて、今回視察した日本庭園の状況はというと、報告のとおり、あまりよいものとは言えませんでした。島の樹木(黒松2本・多行松2本)は枝葉が繁茂し、樹形が崩れてしまっているものもありました。(今回、黒松の剪定を行い、樹形を整えてきております。)



庭の中心となることじ灯籠にかか
るモミジは伐採となっておりま
す、これは人によるものではなく、
湖の住人であるビーバーの仕業だ
ということ。石の護岸は湖の波浪
により浸食され、島に配置された景
石も作庭された当時のものとは、全
く違っておりました。ほとんどが、
自然災害といっても過言ではありま
せん。

この状況を踏まえ、現在、日本庭
園修復に向け金沢市と協議している
ところですが、

協議事項としては、

1 無くなった樹木の補植および
害獣?対策のフェンスの設



置、フェンス周辺の目隠し
として低木の植栽

2 護岸石組の修復、景石の据え
直し等

3 維持管理の指導

などがあり、現地の姉妹都市交流
委員会やボランティア団体の協力の
もと、取り行う予定です。

とはいえ、遠く離れて行う現場で
あり、何かと不都合も多々あると思
いますが、先人の教えである「そこ
にある物を使い、うまいことおさめ
てこい」の精神で、一樹・一石を投
じてより良いものに、そして何よ
り、バツファロー市民の方々に楽し
んでいただけるような場所となるよ
うに修復できればと思っております。

現在の状況(新型コロナウイルス
の感染拡大)により、作業日程など
不透明なところが多々あることか
ら、協会員の皆様方には、ご協力や
お知恵をお借りすることがあると思
いますが、その時はどうぞよろしく
お願いいたします。

なお、荒屋氏とともに訪れたこの
旅が珍道中であったことは言うま
でもありません。



安全管理の講習会について

(株)押水グリーンセンター 松田 裕司

令和元年 11月5日 13:30より

近年、石川県の造園業界においては、現場作業における安全管理についてしっかりと講習を受講し、業界全体が安全管理をしっかりと行い、無事故・無災害を目指していく必要があると考えます。

石川県造園緑化建設協会では令和元年11月に厚生労働省・石川労働局健康安全課村上健康安全係長をお招きし、「工事車両等の安全管理」という題目で講習会を開催いたしました。

講習会では、労働災害の発生状況・発生のメカニズム・墜落防止用の個人用保護具・伐木等に係る規制の改正、高齢労働者に対する労働災害防止等についてお話しを頂きました。

まず初めに労働災害の発生状況は全業種の中でも建設業が一番多く、中でも墜落・転倒が労働災害の割合の多くを占めています。発生のメカニズムとしては安全衛生管理上の欠陥という根本的原因と人・物の安全管理が徹底されない状況という直接

的な原因の2つの延長線上により発生することでした。また、災害という結果を招いた原因を究明し、対策していくことが重要であります。どのような作業においても、作業内容・作業準備・必要機材・保護用具・安全作業のポイントを調査し、各々が理解することで労災を防ぐことができると考えます。

2つ目の墜落防止用の個人用保護具・伐木等に係る規制の改正では高さが2.0m以上である作業におきましては、墜落防止用器具としてはフルハーネス型を用いなければならなくなる。また、伐採においては安全対策の規制が変わるために、特別教育を受講しなければならないとのことでした。特に伐採の安全対策の規制は変更されていますので、現場での作業の前には労災のメカニズムの対策をしっかりと行う必要があることを確認しました。

最後に今後の社会は高齢者が活躍する時代となりますが、高齢者の労災の発生状況や健康問題・機能低下

など予測できる問題を考え、業界全体で健康教育を取り入れ、安全管理・メンタル対策に取り組んでいかなければならないと思われました。

これらにより、造園業界の労働災害が減少し、各世代が造園業に従事しやすくなると思います。また安全対策の規制に対しても迅速に対応することに、今までよりさらに安全・安心に作業を行うことができる業界となるのではないかと考えます。

次に業務災害における保険という題目で東京海上日動火災保険株式会社金沢支店営業課小林副主任・武蔵商事株式会社保険事業部の山下氏をお迎えして講義をして頂きました。

この講義におきましては、初めに労働災害の現状と企業に求められる対策として労務リスクの現状として法制度の変遷・過労死のリスク・新たな労働紛争の広がりといった様々な事例の紹介がありました。2つ目は企業経営に与える影響として労災差額のリスク・訴訟への対応・役員個人が負うリスクといったものが把握でき、最後に労災リスクへの対応策として新型労災保険による備え・保険の果たす役割・健康経営の活用といったものの紹介があり、最新の

情報などをご教示頂きました。

怪我・事故は発生しない方が良いのですが、万が一発生した時点での対応・対処を学ぶことにより、緊急時の対応が迅速に行うことができると思われました。

協会や会社においても、様々な問題に対応する講習会を開くことで、常に作業内容・危険なポイントなどを理解し、現場において、周知徹底していくことが非常に重要だと思われました。簡易的な作業やいつも通りの作業というものに対しては、安全管理はしっかりと行っていく姿勢が大事です。令和という新しい時代を迎え、これからも石川県内における公園・緑地のお仕事においては、石川県造園緑化建設協会の協会員が中心となり無事故・無災害の現場とするように、徹底していかねばならないと強く感じました。



岸会長に旭日双光章

令和元年秋の叙勲で、当協会の岸会長が旭日双光章の栄に輝きました。

旭日双光章は、「国家又は公共に對し功勞のある方、功績の内容に着目し顕著な功績を挙げた方」に国から送られるもので、岸会長は造園業界の発展に大きく貢献されるばかりではなく、その他の団体や組織や地域での功績が認められたもので、当協会にとっても大変名誉なことであり御同慶の至りであります。

残念ながら地元で開催予定でした受賞祝賀会はコロナの影響で中止になりましたが、当協会からは記念品を贈呈いたしました。



「令和元年ゴルフコンペ」

当協会の福利厚生事業として、会員相互の親睦を図るためのゴルフコンペが、去る令和元年10月13日(日)に金沢ゴルフクラブにて、参加者20名で開催されました。

ハンディキャップを考慮した成績は次の通りです。



優勝	植村 隆央	(株)植宗園
2 位	岸 省三	(株)岸グリーンサービス
3 位	中栄 英晶	(株)中栄造園
4 位	坂田 匡	(株)岸グリーンサービス
5 位	河合 健吉	太陽緑化建設(株)

使用コース：兼六・湯涌・戸室							
競技方法：ダブルペリア							
順位	参加者	兼六	湯涌	戸室	GROSS	HDCP	NET
1	植村 隆央	38	42		80	8.4	71.6
2	岸 省三	52		51	103	30.0	73.0
3	中栄 英晶	46		48	94	18.0	76.0
4	坂田 匡	54	52		106	30.0	76.0
5	河合 健吉	51		48	99	22.8	76.2
6	後 秀夫	44	46		90	13.2	76.8
7	松本 誠	56	58		114	37.2	76.8
8	岸 省悟	47	48		95	18.0	77.0
9	出島 光希	55	53		108	30.0	78.0
10	荒屋 義武	58			110	31.2	78.8
11	細川 勝	59	54		113	33.6	79.4
12	中山 浩	55	51		106	26.4	79.6
13	村上 大介	56	70		126	45.6	80.4
14	川村 敦史	59		57	116	34.8	81.2
15	日向野 智司	70		68	138	56.4	81.6
16	浦 誠	60		49	109	26.4	82.6
17	根布 信太郎	73		65	138	55.2	82.8
18	大西 一彰	69		67	126	43.2	82.8
19	瀬戸 繁光	88	76		164	79.2	84.8
20	松田 裕司	65		57	122	37.2	84.8